



元気おおとよ主催 ラフティングイベント 無事終了!!

飛び散る水しぶき、流れが急なことを意味する白く光る川の水流れ、その流れに抗う術もなく翻弄されるうちにだんだんと大きくなってくつきりとコケが見えてくる岩肌。

「当たるー!」「捕まれー!」意外と激流のど真ん中にドンと佇んでいるような岩に到達する水の流れは弱まっていて、ギリギリぶつかることなくそのまま下流へと流れていく。

「おし! (無事下りきった) 漕げ漕げ〜!」

さっきまでは急な流れにビビってたのに、流れがいったん落ち着くと、また、さっきみたいなスリルを味わいたくてみんなで一眼となつてイチ、ニツ、イチ、ニツとボートを漕ぎ進める。

吉野川の激流をボートで下るラフティング。自分の生まれ育った大豊町にこんなに夢中になってワクワクするアスレチックがあったなんて知らなかった。

8月1日と28日の2回、NPO法人元気おおとよ主催でラフティングイベントが開催された。私は28日のイベントに準備等の手伝いもかねて初参加させていただいた。本山の山崎ダムから穴内川の合流地点まで吉野川を下るコースで、本場の岩



原か価格は子ども1000円、大人1500円というNPOだからできる超お手軽価格。それでも、激流に入るときに、子どもたちが「岩に」当たる!と叫んでいる中、私は「危ない! 捕まれ〜!」と子ども以上に大声で叫んでいた。スリルは満点だ。うまく下れた時はみんなでオールを天に掲げたりして、全員で喜びを分かち合う場面も。

りが利いてスピードのあるダッキー。どちらもいいところがあると思う。他にも、川のせせらぎの聞こえる河原で食べるおにぎりの味はこれまた格別だったし、流れの緩い浅瀬でみんな泳いだり、高い岩場から思い切って川に飛び込んでみたり、自然の恵みと川遊びの楽しさを存分に味わうことが出来た。

いいとこ盛り沢山のラフティング。いつの間にか来年の夏も友達でも誘って今度は本場のコースでも行ってみようかと思っている自分。あれ?これってハマっちゃってるってすかね?

NPOが蕎麦作り?

伊達蕎麦騒動

子供のころ食べたもので今でもよく覚えているものに蕎麦があります。記憶に残っている中で私が初めて蕎麦を食べたのは小学校の高学年の時、年も追ったある日、近所の二歳年下の男の子の家で遊んでいると、その家のおばあちゃんが、「蕎麦をこ馳走してあげよう。」と土間にある台所に立ちました。自分で栽培し白でひいた今でいう十割蕎麦。「くど」に火をつけこれも自分で打った少し太めの蕎麦をゆがき、鶏だし風味の温かいどんぶり蕎麦を出してくれました。ネギに加えて小さくみじん切りにした生姜がのせてあり蕎麦の味を引立てていました。そして、なんと言ってもあの特有の蕎麦の香りや風味。匂いでしかり、噛んで花にツンとくる素朴な味わいは子ども心に印象深く残りました。

方々で蕎麦を食べ、自分でも打ったりしてきましたが、子ども

どもの時のあの蕎麦に出会ったことはまだないように思います。そんな折、ひよんな所から「蕎麦のタネを提供したいが。」という話が持ち上がったのでした。ごくごく簡単に説明すると以下のとおり。発端は、司馬遼太郎の「樫の木は残った」で有名な「伊達騒動」。いわゆるお家騒動で、事件を起こした双方が処分され、中で、藩主の大叔父にあたる伊達兵部は土佐に流罪となり、高知城の西に位置する小高坂に田畑10アールを埋めて屋敷を作り幽閉の身となりました。幽閉とは言え、家臣「名の500表扶持で案外優雅な塾居生活だったようです。(兵部は土佐に来て8年後1679年の



11月4日に58歳で病死。五台山に立派な墓石があり、位牌は五台山の麓の吸江寺にあるとのこと。さて、その伊達兵部が土佐にもたらしたものに蕎麦があります。藩から持ってきた蕎麦のタネを自分の敷地内で育て、美味しいということもあって土佐山内家でも食べられていたようです。それから現在の平成の時代まで、話せばなが〜い話になりますので途中省略します。殿様が食べた蕎麦ということもあって、他の蕎麦と交雑しないで守られてきた当の蕎麦のタネ、山内家にゆかりのある家に受け継がれ、まわりまわって幡多農業高校で栽培されるようになりました。

コメントなど

コメントなど

牧野富太郎にも指導をうけたことのある農業高校で蕎麦を栽培されたその先生が昨年他界され、ご子息にそのタネが託されました。ご子息もタネなどの研究に携わる研究をされている方ですが、蕎麦については門外漢だったようで、まず食べてみようとした蕎麦の大半を高知市内の自家製粉をして

いる蕎麦屋さんに製粉や調理を頼み、店の主人をはじめ数人でもり蕎麦にして食したようです。これがこれまで味わったことのない美味しさという皆の食後感。わずかに残しておいたタネをどこかで育てたらどうかという話になりました。「ではどこで？」が、ご子息の家から近いということもあって大豊町に矢が当たりました。役場から私に連絡があり、ご子息とも面談しNPOで育ててみようとなりました。なにせ極々わずかな量のこと、失敗ありも了承してもらい、8月のある日ご子息を交えて数名で種まきを行いました。

無事芽を出し順調に育っているようですが、収穫が多ければ来年味わうことができるとも思いません。そしてひよっとしてむかし近所のおばあちゃんが作ってくれたあの蕎麦の味に出会うことができないかもと密かに楽しみにしています。

平成の時代に大災害を受けた遠い仙台の地から、小さな蕎麦のタネが遠い江戸時代

に高知に伝わりそれが今、大豊の地で芽を出し育とうとしている。ちよつとした騒動ではありましたが「おおきくなあれ」の心境です。

「新企画」大豊 どうしましよう？

元気おおとよのメンバーなのに私はこのまちのことをよく知らない、このまちのことをもつとよく知らねば！という私の個人的な欲求を適えるべくスタートした「大豊どこでしょう？」第1回目は怒田（ヌタ）・八畝（ヨウネ）地区を散策してきました。

8月4日（晴）、今回のメンバーは私と私の弟の2人で決行！！私たちは午後から公民館対抗のボートレースに出場しなければならなかったため、早朝からの出発。まず、向かった先は怒田地区。案内外遠く、私が住んでいる川口地区からは車で30分近くかかりました。昔、梶ヶ森にはよく行きましたが、その道のから別れたところにあることを地図で確認。国道32号線を進み豊永から国道439号線に入っていくます。

向かう途中、豊永の近藤ストアーから少し入ったところに対岸へ荷物を搬入するための滑車を発見！さっそく寄り道です（汗）近くを通りかかったおじいさんに聞くと今でも使われているら

しくワイヤーを叩いたら返事があるかもよと言われました（笑）



439号線を進むと東豊永郵便局があり、そこから梶ヶ森へ向けて細い山道を登ってゆきます。途中、梶ヶ森か福寿草の里への分かれ道の看板があるので、福寿草の里の方へ進み「かみよけはし」と書かれた橋を渡ると、そこが怒田地区となっています。



怒田地区に入るとまず目に飛び込んでくるのは、今の時期、青々とした稲穂が美しい棚田が私たちを迎えてくれました。車を走らせるといた

る所でこのような田んぼを見るのができ、谷向かいの八畝地区の棚田の風景とマッチしてとても心地よい空間が広がります。

そこから少し進むと怒田地区の公民館に到着しました。このすぐ近くには観音堂があり、とてもきれいな空間なので、地域の方々が常に手入れをされているのが伺えます。お堂も立派でしたが、その周りを囲む大木も存在感がありました。特に目を引いたのが、杉と別の木が合体している木があり、この地の神木的な存在ではないかと思われました。



公民館周辺を散策した後、こんどは谷を隔てて反対側の八畝地区を訪れました。この地区で有名なのが「乳イチヨウ」なのですが、私はこれを初めて見て、やっとな乳イチヨウの意味がわかりました。まるで鍾乳石のようにイチヨウの幹や枝からコブが垂れ下がっていて、乳の形を連想させることからこの名前が付いたようです。木の下にあった説明書きには樹齢88

年で、古くから「チチノキ」や「乳もらいの木」と言われ多くの母親たちが参拝に来ていたとありました。



ここで時間が無くなってきたので、今回のまちあるきは終了となったのですが、せっかくなので梶ヶ森からゆとりすとパークまで抜ける山道を通って帰ることにしました。時折開けたところでは空が近く遠くの山まで見渡せるすばらしい景色、ドライブにはもってこいの道で、今度来るときは自転車で帰ってきてもサイクリングしたいと思える道のりでした。



これで第1回「大豊どこでしょう？」は終了です。次はあなたが住んでいる地区に行つてウロウロしたり、お声を掛けさせていただくこともあるかもしれません。その時は暖かく迎えていただけると幸いです。

この様子は元気おおとよのフェイスブックページで

第二回座談会

開催のお知らせ

今、大豊町ではガソリンスタンドの減少や福祉施設の営業時間短縮など、さみしいニュースが多く聞かれるようになってきました。このような状況を皆さんはどのように感じていますか？

元気おおとよでは、今年1月に開催した第一回座談会「あなたの山の木、お金になる？ ならない？」に続き、第二回座談会「大豊どうしましよう？」を開催します。

今回は、あまりテーマを絞らずに広い視野で大豊町の将来を考えてみたいと思います。大豊町の良いところ、悪いところ、困っていること、可能性を感じているところなど、いろいろな視点で話し合ってみたいと思います。ぜひあなたの意見をお聞かせください。

も配信しておりますので興味のある方はご覧ください。元気おおとよのホームページにもそのうち掲載したいと考えております。フェイスブックページ <https://www.facebook.com/genki.otoyo>

開催概要は左記のとおりです。当日の参加者人数を把握するために事前の申し込みをお願いします。皆様のご参加をお待ちしております。

元気おおとよ 第二回座談会

テーマ「大豊どうしましよう？」

～みんなで考えよう大豊町のこれから～

参加無料

日時：2013年11月23日（土）13:00 開始

場所：大田口総合ふれあいセンター

お申込み・お問合せ：080-5095-6451